

報 六 内 学

2014.1.27

no.1449

ノ者ヲ水牛ト稱スレハ
多クハ他種ノ牛角又ハ
馬牛ノ蹄甲ナリ

第八 單蹄類

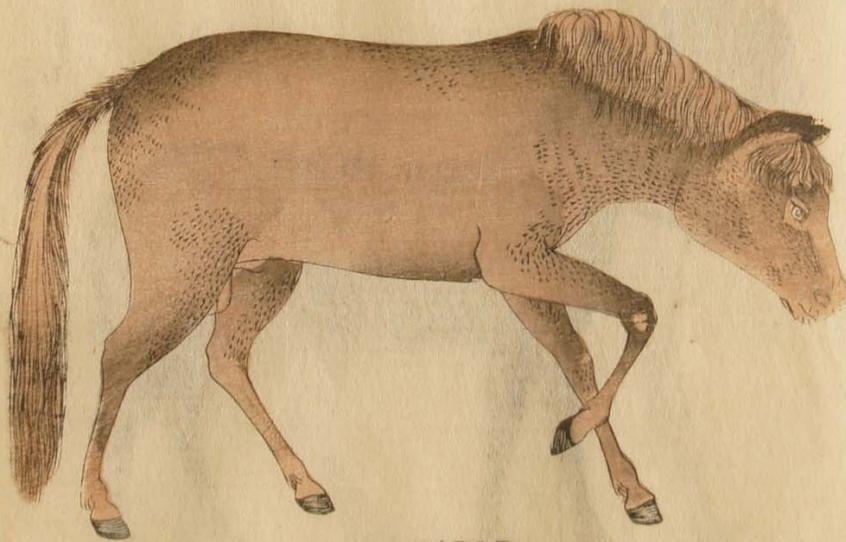
SOLIDUNGUA.

二十二分一

此類ハ形體皆聳立美麗
ニシテ資性銳敏行走捷
疾ナレバ人之ヲ養テ乘
駕ノ用ニ供セリ

第六十五 ウマ 馬

騎乘牽馱ニ用テ最上ノ家畜
ナルヲハ人ノ知ル所ナリ毛色
種々アリ齒ヲ以テ年齢ヲ知ル
南部仙臺等ニ産スル者ヲ上ト
ス又土佐ノ産ハ體小ナレハ強
シ又近年亞刺伯種ヲ傳フ形大
クシテ強健ナリ



HORSE.

EQUUS CABALLUS, LINN

動物図彙

馬

世

博物

館

卷頭言! 濱田総長 年頭挨拶

大特集! 東大ロゴ図鑑 附置研究所・全学センター・国際高等研究所編

新連載! リベラル・アーツの風

総長年頭挨拶



東京大学総長

濱田 純一

日本社会は昨年来、少しずつ元気と自信を取り戻しつつあるかのように見えます。こうした社会の上向き傾向を確実なものにできるか、今年は、大きな分かれ道となる一年です。

いま東京大学では総合的な教育改革が進められており、この改革を確実に実行することが、グローバル人材の育成をはじめとする社会からの期待や昨今の大学ガバナンスをめぐる議論に応えることとなります。平成27年度からの本格実施を控えて、今年は、熟議熟考とスピード感を両立させていく集中的な努力が求められる一年となりますが、全学を挙げてこの改革に取り組んでいきたいと思えます。社会からの大学への期待を圧力とすることなく、大学自らが強い信念と意思をもって一歩先んじて必要な取り組みを進めていくという姿勢が不可欠です。

また、そうした主体的な取り組みの一環として、いまこの機会に、社会における大学とは何か、学術とは何か、ということ改めて真剣に考えることも重要です。歴史を振り返ると、東京大学創設の9年後に公布された帝国大学令の第一条は、「うんのう こうきゅう帝国大学ハ国家ノ須要ニ応スル学術技芸ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攷究スルヲ以テ目的トス」と定めていました。日本における学術の黎明期にあって学術の深い奥行きを国家として端的に認識していた、「蘊奥ヲ攷究スル」という言葉の重みを、改めて確認すべき時代でもあるように思えます。

このたびの教育改革がもたらす成果は、教育の分野のみに限られるものではありません。い

まの高い研究水準を教育に生かすことは、次の時代の研究を担う世代の育成に直結します。研究者という立場からすると、教育により多くの力を注ぐことは負担増につながるのではないかと、という危惧もありえます。しかし教育は世代を超えて、優れた研究を維持発展させるために不可欠なものであり、また自らの研究にも大いなる恩恵となって跳ね返ってくるものです。さらに、こうした状況を、逆に、日々の業務をより合理的・効率的なものにしたりスリムにしたりする好機と捉えてほしいとも願っています。つまり、この教育改革が目標としているのは、世界トップ水準の教育はもちろん、世界トップ水準の研究であり、世界トップ水準の業務運営です。それを目指し実現する過程の中で、次の時代の東京大学の姿が着実に形成されてくるはずで

こうした取り組みを全学あげてすすめていく時、教職協働という組織運営の原理が、これまで以上に重要になります。教員が行っていた仕事を職員が引き受ける場面も増えてきます。新たな業務にかかわることで、職員の知識や企画力がさらに豊かになり、自信も育ちます。改革がすすむ中で、今年を、教職協働がさらに大きく進展する年としたい、職員の能力がさらに大きく花開く年にしたいというのが、私の強い思いです。

この一年は、日本社会にとっても東京大学にとっても、大きな正念場です。教職員の皆さんには、この一年ご健康で大いに活躍下さることを願っています。

知るほどに愛着増すよわが組織♡

東大ロゴ図鑑

附置研究所・国際高等研究所・全学センター編

2011年1月号の本誌で展開した新春お楽しみ企画「東京大学ロゴ事典」(右画像参照)の第2弾が、3年の時を経て登場です!今回は、附置研究所、全学センター、国際高等研究所、そして前回掲載がなかった学部・研究科のロゴもあわせて、どどーんと22個も掲載。ご縁がなかった組織でも、マークの由来やなりたちを知れば、親しみや愛着が倍增するかも!



附置研究所

医科学研究所



↑医科学研究所100周年の際に黒木登志夫名誉教授の発案により作成。イラストレーターがデザインしました。DNAの二重らせんをあらわしています。

地震研究所



↑1992年の第1回地震研究所一般公開パンフレット表紙用に作成したデザインが、1994年所内の投票の結果、地震研のロゴマークに決定しました。地球の内部構造図をリングに見立て、くし切りにしたユニークなデザインは当時大学院生だった河原純氏の作品です。

東洋文化研究所



←大学名と所名にある2つの「東」をデザインしたもので、甲骨文の一書体に基づきます。全体として地球を表し、青い弧が東洋、黄色の弧が東洋以外の地域、縦軸の赤線が経線、横軸の緑線が緯線、その両線の交点、即ちロゴマークの中心が当研究所を表しています。

生産技術研究所



↑本所の前身である第二工学部教授であった故星野昌一名誉教授がデザインした、旧東大マークの周囲に本所の英語表記を配置したものです。2005年に銀杏にゴールド、英語表記に紺色を配色したカラー版を作製し、白黒版と併せてともに広く活用されています。

社会科学研究所



Institute of Social Science
The University of Tokyo

↑社会科学研究所は、法学、政治学、経済学、社会学という4つの学問分野を用いて現代世界が直面する重要課題に取り組むことをミッションとしています。このロゴは、4つの分野を表す羽をもった「知の手裏剣」により世界を見る(中心の目)ことを表しています。

分子細胞生物学研究所



↑1993年4月1日付で、応用微生物研究所から分子細胞生物学研究所に改組されたことを機にロゴマークを作成することになりました。同年5月に図案の募集を行い、分生研教職員による投票に加え専門家を交えた審査を経て、1994年7月に決定しました。

先端科学技術 研究センター



↑英語名称のResearch Center for Advanced Science and Technologyの頭文字をつなげたもので、第3代大須賀節雄センター長の下でデザインされ、その後、大学名を入れて現在のデザインになりました。

物性研究所



↑1982年に物性研究所創立25周年記念行事を行うにあたってシンボルマークを公募し、応募総数82件の中から採用されたものです。物性研究所の英語略称である「ISSP」を五葉の銀杏で囲んだデザインとなっています。

大気海洋研究所



↑海・空・雲・大地・船が描かれた葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を源泉とし、荒波に向かう船と富士山の位置にあるAORIの文字に「大自然の神秘に立ち向かう、日本を代表する研究機関」という意味を込めています。デザイン原案は今田由紀子特任助教。

宇宙線 研究所



↑ロゴ案は、所内で募集され、ガンマ線遠望鏡「カンガルー」グループの土屋兼一氏作成のロゴに決定されました。超新星爆発、重力波、衝撃波、空気シャワー、蛍光、チェレンコフ光など、宇宙線研究所を連想させるものをイメージしています。



全学センター

環境安全研究センター



↑センターの処理施設を経由することで廃棄物が安全な形で環境に出て行くイメージに、水や風の流れのイメージを重ね合わせ、時代のスピードに合った処理能力の高さを略称ESCの一筆書きストロークで表現しました。デザインは横山稔氏（現文化学園大学教授）。

大学総合教育研究センター



↑2007年、大学総合教育研究センターのホームページをリニューアルした時に誕生しました。本センターは「東京大学調査室」が改組されたもので、1996年5月の発足時に調査室が安田講堂内にあったこともあり、時計台をモチーフにデザインされました。

人工物工学研究センター



↑「あらゆる人工物は脳機能の表出、つまり脳の産物に他ならない」(養老孟司「唯脳論」)。とすれば、我々が人工物工学研究も最終的には脳そのものの研究に向かわざるを得ないはず。人工物工学とはその「脳」に行き着くための一つに扉に過ぎないのです。

アジア生物資源環境研究センター



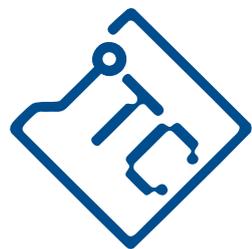
↑アジアの生物資源の持続的利用と環境保全の調和に関する統合的な研究を推進する全学センターとして、生物資源の土台である土（陸地）と水（水域）とその連関をイメージしながら、地球的視点に立つて現場の課題に取り組むという姿勢を表しています。

空間情報科学研究センター



↑機関の略称をもとにデザインしました。当初はワインレッドで塗られていましたが、より明るいイメージ、かつ他のデザインになじみやすいという理由で、現在のピンク色になりました。複数案から、教員の投票によって、現在のロゴが選定されました。

情報基盤センター



↑情報基盤センターのロゴは、英語名称「Information Technology Center」の頭文字からデザインされています。

大規模集積システム設計教育研究センター



↑2003年秋に浅野キャンパスに竣工した「武田先端知ビル」を記念してロゴを募集したところ、10名の方から14件の応募があり、鄭若彤さん（当時助手）の案が採用されました。シリコンウエハを連想させる曲線を多く使ったとの提案者のコメントでした。



政策ビジョン研究センター

←「東京大学の多数の部局・研究者と人々を結んでネットワークを形成し、社会に向けて政策の選択肢を提言する組織であることをイメージし、当時公共政策大学院に在籍していた丸尾圭祐さんがデザインしました。英語略語のPARIをリング状に配列しています。

国際高等研究所

カブリ数物連携宇宙研究機構



↑照明・グラフィックデザイナーの石井リーサ明理さんによるデザイン。IPMUの窓を通して宇宙を見るイメージと、天体の運行をイメージする多くの小さな円が組み合わされています。2012年、カブリ財団からの基金獲得に伴い、ロゴにも「KAVLI」の文字が加えられました。

サステナビリティ学連携研究機構



←3S(System, Sustainability, Science)を三色の小さな円で表し、地球を示唆する大きな円で包みこんでいます。円は、禅の「円相」をも意味し、地球社会の持続可能性に貢献する新しい学問の構築を象徴します。IR3Sの斜体文字は、問題の緊急性、研究活動の迅速性を表現しています。作者はデザイナーの杉浦康平さん。

研究科 (前回未掲載分)

新領域創成科学研究科



←キャンパスが位置する地名を考慮し、柏の知の大木のイメージを東京大学のロゴと同じ青と黄の2色で表現したものです。黄色の葉が紅葉した葉を表し、内側から広がる青葉が新葉を表します。研究科がめざす新規分野への成長性と、諸学問同士のネットワークを、木の枝の広がりのイメージに託しました。柏の知の系譜が脈々と受け継がれるようにとの願いが込められています。

農学生命科学研究科

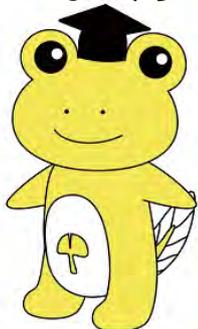


←考案者は当時応用生命科学専攻に在学中の学生。銀杏の葉でAgricultureの頭文字「A」を表現し、その一部は生命科学の根本であるDNAの二重らせん構造を象徴します。培われてきた知と精神のDNAが未来へ受け継がれるようにとの願いが込められています。

おまけ 知ってた? この犬、あのクリーチャー…… 「ロゴ図鑑」のおまけ企画として、東大界隈に棲息するいたいけなマスコットが大集合! ええ、そうです、思わずLINEのスタンプにしたいくなるのは、ふなっしーだけじゃないんです!

東大ゆるキャラ図鑑

こまっけろ ←駒場祭の公式マスコット。駒場池に住んでおり、お祭りの時に姿を現します。ある日、散歩の途中で拾った帽子をかぶって見たら、日本語がしゃべれるように! 背中の上っぱは子供と大人の間である大学生を表現しています。



ごろくろー ←柏キャンパス一般公開の非公認キャラ。名前はキャンパス内の五六郎池から。頭の血は柏の葉の形。でも歩くのが下手だから水がこぼれちゃうんだ。一般公開日には本物と出会うことも!?



→バリアフリー支援室のゆるキャラ。「ことだま」とは言葉に宿ると信じられている不思議なちからのこと。私たちに、支援の基本はコミュニケーションであることを教えてください。真ん中の2人は手話で何と喋っているのでしょうか?

こまとちゃん ←駒場図書館が学生や教職員に親んでもらえるように、と田口忠祐さん(現・農学生命科学図書館)が考案。こまとちゃんのように多くの蔵書を手にとって読んでください。



イチ公 ←運動会の公式マスコットは、東大が主管を務めた第48回「七大戦」で生まれました。名前の由来は教養学部の前身・一高(第一高等学校)。文具やトートバッグなどのグッズは生協で販売中!



ことだまくん



ユータスくん →UTask-Web公式マスコット。学生が駒場の自然と共に賢く育つように、との願いから生まれた宇宙ガラスです。生みの親は化学の先生。ユータスくん学事日程カレンダーは駒場生協で販売中!



物性犬

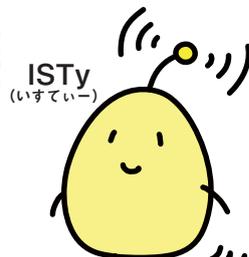


↑2012年生まれで任務は物性研究所の紹介。柏餅みたいですが柏の葉の中の物性「犬」です。れっきとした教授会承認キャラクターです!

Miyoちゃん ↑教養学部英語部会がテキストの編集段階で製作。名前には鳴き声の「meow」とテキストのこの箇所を「見よ」が掛かっています。額の模様はMiyoのM。作画は斎藤兆史教授です。



ISTy (いすていー)



↑情報理工学系研究科の10周年記念キャラ。名前は研究科の英語略称から。頭のアンテナで世界の情報システムとつながっています。賢い機械生物で家事などのお手伝いができます。作者は五十嵐健夫教授。

グラン博士 **メーユ** **赤浜クン**



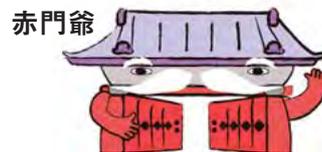
↑メーユは大槌町のひょうたん鳥生まれ。新巻鮭ときれいな湧水が好きなお女の子で、名前はフランス語で木槌の意。大気海洋研究所の「プロジェクトメーユ」(東北マリンサイエンス拠点形成事業) 広報大使として友達の赤浜クンやグラン博士とがんばっています。

もりかも

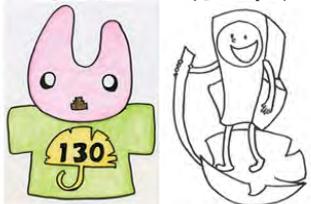


←「打刻した?」の画像でもおなじみ、「行動シナリオ」応援キャラ。名前の由来は総長の所信「森を動かす」にちなんだ「森を醸す」という応援コピーです。「鴨脚」が銀杏の別名であることも表現されています。

赤門爺



U-Tan **ガストフ**



↑東京大学創立130周年記念事業の学内公募で入選となった3つのキャラです。当時はしおりとなって3つのキャンパスの生協で配布されていました。

ヘリウムくんとチツンちゃん



↑低温センターを身近に感じてもらえるよう、寒剤の学内供給業務や事故防止をPRするキャラとして誕生。心をもったヘリウム容器と窒素容器のふりをした妖精です。妖怪ヒヤリハットの魔の手から研究者や学生の身を守るため、オープンキャンパスや安全講習会などで活動中。

ユニオ **トキオ** **エコロ爺**



←UT試薬サイトのマスコットは、おとなしいが想像力に優れた兄トキオと明るく元気一杯の弟ユニオのユーティーツインズ。エコロ爺は2人の祖父で元東大教授の化学者です。

めい



←五月祭の公式マスコットは、紙と銀杏の実が大好きなお女の子。実行委員会に突然現れて散乱した紙をむしやむしや食べ、名前を聞いたら「めい」と答えた、という逸話が残っているそう。

いちょうくん



↑「学内広報」にもマスコットがいるんです! 胃腸くんじゃないよ〜。

番外編 大学戦士トーダイ

→東大特撮映像研究会が製作した、大学の平和を守るヒーローです。額には銀杏の葉、胸には赤門。普段は駒場の平和を守っています!



教養教育の現場から

第1回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学のすべての構成員がぜひ知っておくべき教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんのレポートでお届けします。

教養教育高度化機構とリベラル・アーツ

教養学部附属教養教育高度化機構長
総合文化研究科 教授

松尾 基之



今回から隔月で、教養学部附属教養教育高度化機構が「リベラル・アーツの風」と題して、教養教育の最前線の姿をお届けします。東京大学教養学部は、戦後、全国の新制大学が2年間的一般教養課程である「教養部」を置いたのに対して、唯一、当初から独立の学部でした。戦後のリベラル・アーツ教育の中で最も古い歴史を誇るものです。1991年の大学設置基準の大綱化により、多くの大学が教養部を次々に改組・解体するなかでも、東京大学の教養教育重視の姿勢は変わることはありませんでした。

現在、私たちは、地球環境や生命倫理問題、民族紛争や人間の安全保障など、さまざまな課題に直面し、早急な対応を迫られる時代を生きています。このような時、私たちに求められるのは、単に専門的な知識の量を増やすことではなく、文理融合の分野横断的な複合的視点をも身につけることです。広い視野と総合的判断力を身につけた新世代のリーダーや、新しいサイエンスの開拓者の育成には、大学教育の基礎としてのリベラル・アーツ教育が重要です。

そうした中で、2005年4月に教養学部附属教養教育開発機構がスタートし、

前期課程（学部1・2年次）に重点を置いた様々なリベラル・アーツ教育を実践してきました。さらに、2010年4月には附属教養教育高度化機構（KOMEX）として拡充され、後期課程、大学院へとスタンスを拓げるものとなっています。

8部門で教養教育高度化を実践

教養教育高度化機構には、現在8つの部門（実施部門を除く）があり、それぞれ特徴的なリベラル・アーツ教育を実践するとともに、その成果を全国の大学や世界に向けて発信しています。詳細な取り組み内容は次回以降に譲るとして、今回はいくつかの具体例を紹介します。

アクティブラーニング部門では、写真の駒場アクティブラーニングスタジオ（KALS）に見られるように、双方向的なゼミ形式の授業をやりやすくする工夫のされた教室設備を用い、データ・情報・映像などのインプットを読解・ライティング・討論を通じて分析・評価し、その成果を統合的にアウトプットする能動的な学習活動を展開しています。

社会連携部門では、東京大学の教育活動と社会・民間との双方向の関わりを促進することによって、大学の中で閉じた

教育・研究活動のみでは生み出せない新しい教育手法を開発・実践することに取り組んでいます。一例として、「正解のない問いに、共に挑む」と題したブランドデザインスタジオでは、「共創」の手法により商品やブランドなどの新しい価値を発想・構想する特別プログラムを通じ、コミュニケーションやプレゼンテーションといったスキルを身につけることを目指しています。

国際化部門では、東京大学が培ってきたリベラル・アーツ教育の蓄積を、海外の大学との教育交流を通じて発信し、リベラル・アーツ教育の国際的な展開に取り組んでいます。また、そこで得た経験や成果を、教養学部の教育にも還元していくことで、日本の大学教育のあり方を刷新し、国際的な視野を持った人材の育成に貢献することを目指しています。

このように、教養教育の現場では、次々に新しい取り組みが始まっています。来る3月12日（水）には、「初年次教育」と題した教養教育高度化機構シンポジウムを駒場キャンパスの21KOMCEEレクチャーホールにて開催します。皆様のご来場をお待ちしております。



アクティブラーニングスタジオでの、ミニホワイトボードを使ったグループディスカッション。



（上）ブランドデザインスタジオで、「新しい2月14日」をブランドデザインする」に取り組む学生達。（下）南京大学集中講義「水」及び学生共同研究参加者たちの記念写真@南京大学仙林キャンパス。



ききんの「き」

—東大基金で森を動かす—

第9回

谷本 知嘉子

渉外・基金課主任
プレミアムチーム担当

富裕層への「おもてなし」

今回は渉外本部内でも心なしか秘密のヴェールに包まれている高額寄附獲得業務についてご紹介します。

東大基金では、個人で500万円以上の寄附をして下さる方を「プレミアム・パートナー（以下PP）」と呼びしています。現在、PPは約100名、その他の個人寄附者は約1万5千名です。人数1%未満のPPが寄せる額は、個人寄附額全体の85%程度となっています。プレミアムチームでは、こうした富裕層から高額なご支援をいただくことを使命としており、通常の個人寄附獲得業務と比べ、2つの特徴があります。

一つ目は、目的指定のある寄附が大半だということです。PPの多くは、日々様々な団体から寄附の依頼があり、その中から、ただ何となく東大を選ぶということはありません。心に「響く」内容を提案し、賛同していただけるよう工夫をしています。二つ目に、お申込みまでに時間がかかるということです。意向に合う内容を、いつ・誰が・どこで・どうやってお願いをするのか検討し、機会を探ります。そのためには、相手に東大のことを知っていただくと共に、東大も相手のことを知る必要があるのです。こうして積み重ねた時間で得た沢山の情報を（時には食べ物好みも！）各担当者は十分理解した上で接しています。また、担当者としての雑感では、PPの方は第一線で活躍をされている（いた）方が多いので、何事も判断が早いということも特徴です。質問には迅速かつ簡明に反応することが求められ、心地よい緊張感があります。

最後に、教職員のちょっとした言動で東大との縁を感じ、寄附に結び付くこともあります。おもてなしの心といいますが、皆さんが接している方が、未来の高額寄附者となるかもしれませんよ！



本学への500万円以上の寄附は紺綬褒章（公益に私財寄附し功績顕著な者）の推薦対象になります。

東京大学基金事務局 教職員寄附1億円キャンペーン中！

TEL 03-5841-1217 E-mail kikin@adm.u-tokyo.ac.jp
内線21217 URL http://utf.u-tokyo.ac.jp/

留学生さん いらっしやい!

第8回



海を越えて東大に来た学生に聞きました。



中国

余韻さん

Yu Yun

教養学部英語コース
(PEAK)2年

福州市出身。名は「会った際の印象が残るように」との意。ミスチルや旅行や「家族ゲーム」や「半沢直樹」が好き。

Q. どうして日本に来たんですか？



15歳のとき、母の勧めでシンガポールに移り、全寮制のインターナショナルスクールに入りました。そこで日本人学生と交流したのを機に日本文化に目覚めた感じです。アメリカより近くて親が安心できるから、でもあります。

Q. ではどうして東大を選んだんですか？

大学説明会でPEAKを知って決めました。一期生で不安もありましたが東大なら大丈夫だろうと信じて来たら……good choiceでした！



Q. いま勉強しているのはどんなこと？



主に人文社会系の授業を選んでます。先日は日本文学の授業で森鷗外を読みました。アジアの歴史、特に中台関係を扱う授業には、台湾出身の同級生もいて、今後が楽しみです。

Q. 日本に来て一番印象的だったことは？

「思いやり」ですね。言葉が通じなくてもこちらが困っていることを察して声をかけてくれる人が多い、と感じました。たとえば、お店の人とても丁寧接客してくれますよね。中国と比べるとだいぶ違うと思いました。



Q. 出身地の自慢を教えてください！



福建省はお茶文化が発達した土地で、種類によってポットを変えるのは当たり前です。写真は烏龍茶の最高級品「大紅袍」の原木がある武夷山。1オンスで350万円以上ですよ！



ターホンバオ ウー

協力：国際センター駒場オフィス 制作：本部広報課

※ご本人が英語で話した言葉を本部広報課が日本語に訳して掲載しています。

ワタシのオシゴト 第95回

RELAY COLUMN

施設部計画課
電気設備チーム係長 片岡 透

工事中はご迷惑をおかけしています



計画建物と接続予定の共同構内にて。

角川本郷ビル内の施設部計画課に所属しています。新規建物や大型改修物件等の電気設備工事の発注や現場監理を担当しています。

設計時や施工時には、管理しやすく使い勝手の良い建物になるように心がけていますが、細かい点で行届かない面もあります。以前、施設部から部局に異動したときに、自身が担当した建物の管理をした事がありました。反省すべき点も多少(多々?)みられ、これからの施設整備の参考になりました。やはり施設整備にあたっては使用者の使い勝手を一番に考えるべきだと再認識しました。

各種法令、予算などの縛りに苦しみながら仕事をしていますが、出来上がった建物が正常に稼働し始めた時の喜びは一人です。

キャンパス内で緑色の作業着を着た人を見かけたら温かい目で見守ってください。



東海団地国際交流会館工事の現場担当者と。

得意ワザ：暗算(4桁の開平程度は計算できます)。

自分の性格：小心者かつ大雑把。

次回執筆者のご指名：川口健太郎さん。

次回執筆者との関係：施設部で同僚でした。

次回執筆者の紹介：頼まれたら嫌と言えない方です。

Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学連携本部

第98回

著作権とはどのような権利?(その2)

「学内広報」1445号のCrossroadで、著作権(財産権)の一つとして、著作物をコピー(複製)することができる複製権があり、他人の著作物をコピーする場合は、この複製権を持っている人から許可をもらう必要があることを説明しました。

しかし、この許可を得なくてもコピーできる場合がありますので、今回と次回は、その主要なものについていくつか説明します。

1. 私的使用のための複製の場合

個人的な使用、または家庭内やこれに準ずる限られた範囲内で使用する場合は、許可を得なくてもコピーすることができます。

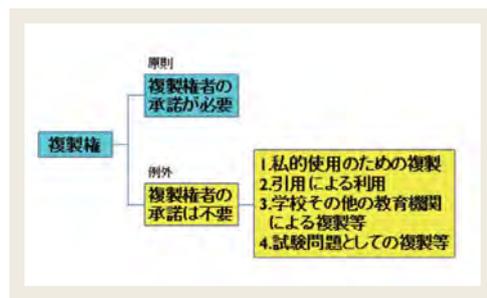
例えば、学生が本人の学習のためにコピーをする場合が該当します。しかし、企業や団体において内部的に業務上利用する場合はもはや個人的な使用とはいえませんので、許可が必要になります。

また、使用する者自身がコピーすることが必要ですので、複製業者に依頼してコピーさせることはできません。なお、秘書が社長や教授などの命令に従ってコピーする場合は、社長がコピーするのと同視できると考えられています。

2. 引用による利用の場合

公表された著作物については、報道、批評、研究等の目的上正当な範囲で引用する場合は、許可を得なくても引用(コピー)することができます。

例えば、学術論文で他人の論文の一部を引用する場合、引用する必然性があり、自己の創作部分と他人の創作部分が明確に区別でき、かつ量的、質的に自己の創作部分が主で、他人の創作部分が従である場合が該当します。この場合、引用する著作物の出所を明示することが必要とされます。



<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

インタープリターズ・第78回 バイブル

総合文化研究科教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門 **長谷川 壽一**

科学研究行動規範リーフレット

去る12月、東大における科学研究行動規範をまとめたリーフレットが完成し、現在学内で配布中である。読者のお手元にもそろそろ届くころではないだろうか。よく目立つイエローの地に、東京大学の科学研究における行動規範、研究活動の不正行為、責任ある研究活動に向けて、不正行為の例示の4項目が、それぞれ日本語と英語で記されている。

このリーフレットは前々より科学研究行動規範委員会において準備を進めていたものだが、完成のタイミングが分子細胞生物学研究所旧加藤研究室における論文不正の疑いに関する調査（中間報告）の記者発表と重なった。今回の事案は、本学でかつてないほど大規模なものであり、再発防止の徹底は喫緊の課題である。東大の全構成員がこのリーフレットを熟読することは、再発防止の第一歩となるだろう。

これまで学部、大学院を通じて科学研究の行動規範についての教育が疎かであったことは否めない。筆者の研究室においても、年度始めの研究室セミナーで捏造・改ざん・盗用の厳禁は毎年注意喚起してきたものの、わずか数分だけの訓示で十分であったとは思えない。リーフレットに記されている通り、「科学研究に携わる者の責任は、負託された研究費（科研費等競争的資金のみならず運営費交付金をも含む）の適正使用の観点からも重要である。大学における科学研究を支える無数の人々に思いをいたし、十分な説明責任を果たすことにより研究成果の客観性や実証性を保証していくことは、研究活動の当然の前提であり、それなしには研究の自由はありえない。」

科学技術インタープリタープログラムでは、ともすればアウトリーチ活動に重点が置かれがちであったが、その大前提として、社会の中で科学が存立できる基盤について再認識することが不可欠である。当インタープリタープログラムは、学内でも最先端の科学論及び科学技術社会論の講義を提供してきたが、今後はすべての学部・研究科において、社会の中の科学（Science for Society）に関する教育が体系的に行われる必要がある。

専門分野の個別の研究にどっぷり漬るだけではつまらない、科学の在り方が今、真摯に問われている。

科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

救援・復興支援室 より

第32回
本学の救援・復興支援室の最近の状況や、遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

救援・復興支援室の活動(12月～3月)

12月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア／福島県相馬市「寺子屋・育英館」学習支援ボランティア
12月～1月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア
1月30日	第20回救援・復興支援室会議
1月～3月	福島県相馬市「育英館・寺子屋」学習支援ボランティア

ザシキワラシの日常

本部企画課係長（遠野分室勤務）



文：佐藤 克憲

ここ遠野を宿泊拠点として実施（派遣）している東日本大震災に関わるボランティア活動には、夏季等の休業時にがれきの除去等を行うボランティア隊と、児童・生徒の勉強をサポートする学習支援ボランティアがあります。本年度はこれらを岩手県陸前高田市で行い（注：学習支援は福島県内でも実施）、以前本コラムでも活動の様子と共に、甚大な被害を受けた同市の復興が思うように進んでいない様子をご紹介したところです。

同市に面している広田湾は、岩手県のかき（牡蠣）の主要産地の一つで、築地でも高値で取引されるブランド物が養殖されていますが、先の震災で養殖施設等に甚大な被害を受け、復旧に時間を要することもあり、生産量はまだ震災前の半分程度とのことです。

そんな同市に昨年12月1日、同市で初となる「かき小屋」がオープンしました。関西出身の店長さんは、同市でかき養殖のための筏づくりのボランティア活動を行った際オーナーであるかき生産者と知り合い、多くの人に広田湾産の新鮮なかきを現地で食べて欲しい、と意気投合。調理師免許を所持し飲食業の経験があることから店長として腕を振るい、同店は土日を中心に大勢のお客さんが訪れるスポットになっています。

漁業支援のボランティアは、後継者不足や震災を機に廃業する方も多い状況から、現在もニーズがあるようです。今後本コラムにおいて、この様な復興支援ボランティアのニーズなどもご紹介できればと思います。

今回もお読みいただき「オアリガトガンス！」



（左）小屋内部（右手前は蒸し焼き用の鍋と熱源のストーブ）。（右）目の前には津波の爪痕が今も生々しく残る……。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html
内線：21750（本部企画課）

トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとして簡単にご紹介します。それぞれの記事の詳細は、全学ホームページよりご覧ください。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
12月13日	生産技術研究所	「駒場リサーチキャンパス外国人研究者・留学生との懇談会」の開催	10月24日
12月17日	産学連携本部	第24回科学技術フォーラム「社会を変えるものづくりイノベーション」が開催されました	11月27日
12月17日	本部学務課	平成25年度教職課程・学芸員等実習報告会及び懇談会を開催	12月9日
12月18日	本部施設企画課	安田講堂の改修工事について	12月3日
12月20日	生産技術研究所	千葉実験所公開が開催される	11月8日
12月24日	新領域創成科学研究科	櫻田副大臣が東大柏キャンパスを視察	12月13日
12月24日	農学生命科学研究科・農学部	「第8回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会」を開催	12月14日
12月25日	本部外部資金課	平成25年度「科研費」審査委員の6名表彰される	12月6日
12月27日	本部学生支援課	『本郷の学生生活2014』表紙イラストの表彰が行われました	12月24日
1月1日	広報室	濱田総長年頭挨拶	1月1日
1月8日	人文社会系研究科・文学部	本部棟1階展示	1月8日
1月8日	サステイナブルキャンパスプロジェクト室	IARU サステイナブルキャンパス交換学生の帰朝報告会を開催	10月25日
1月14日	本部総務課	2013年度業務改革総長賞表彰式の開催	12月20日
1月16日	産学連携本部	東京大学産学連携協議会「アドバイザリーボードミーティング」を開催	12月11日

(12月13日～1月16日掲載分)

お知らせ

人事異動情報など全学ホームページ「お知らせ」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/>)・東大ポータル等でご案内しているさまざまなお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
12月26日	本部キャリアサポート課	キャリアサポート室及び学生相談ネットワーク本部相談施設等の再移転のお知らせ	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/1589/
1月1日	本部人事給与課	人事異動（教員）	http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/人事異動（教員）
1月16日		退職教員の最終講義（2月開催分）	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/1680/

(12月13日～1月16日掲載分)

表紙について



東京大学総合図書館所蔵資料 (T86-96)

毎年1月号の表紙にはその年の干支にまつわる画像を掲載するという吉例に則り、総合図書館所蔵の田中芳男文庫から、『動物訓蒙 初編 哺乳類』（田中芳男・選／博物館蔵版／明治8年）の「馬」のページを掲載しました。本書は亜米利加人以下82種の哺乳類を解説した図説で、当代一流の博物画家だった中島仰山の筆が冴える趣き深い

一冊です。田中芳男（1838～1916）は、1866年のパリ万博に派遣された後、日本の博覧会や博物館や動物園の礎を築いた巨人。60年間にわたって菓子のラベルやら弁当の包み紙やらの雑多な印刷物をスクラップした全98冊の『摺拾帖』や、日本全国のスルメを拓本にした『鰯帖』でも、その筋ではつとに有名です。…ビバ・ヨシオ！



CLOSE UP

本部棟1階に土器や骨斧が登場! (人文社会系研究科・文学部)



展示ケース内。触ってはいけません。

本部棟1階ロビーでは、新年1月より文学部附属北海文化研究常呂実習施設の展示を行っています。考古学研究室は北海道東部の常呂町(現北見市常呂町)で半世紀にわたって考古学調査を行ってきました。常呂町内の旧石器時代から縄文時代・続縄文時代・オホーツク文化期・擦文時代を経てアイヌ文化期に至る全時代を対象とした考古学調査がひとつの研究機関で行われて

きたことは、世界的に見ても未曾有の試みであると言えます。今回の展示では、パネル5枚に加え、北海道網走市の「モヨロ貝塚」を調査した際出土したオホーツク土器、牙製婦人像、骨斧を展示しました。北海文化研究常呂実習施設の歴史と研究成果をご覧いただければ幸いです。
→<http://www.lu-tokyo.ac.jp/tokoro/>
常呂実習施設・常呂資料陳列館



CLOSE UP

安田講堂は鋭意改修工事中です! (本部施設企画課)



仮囲いに過去の写真等を掲示しています。

東京大学安田講堂は、2013年度から2014年度にかけて、耐震補強を含めた全面改修を行っています。具体的には、講堂の耐震化、防災機能の強化及びバリアフリーへの対応等です。外観の変更はありませんが、安心・円滑に学内行事等が挙行できるよう改修される予定です。

工事の間、内部に入ることはできず、また外部からの姿も仮囲いによって不完全にしか見ることができません。そこで、工事完了までの間、この仮囲いの壁面を利用して、安田講堂の現在と過去の写真、そして当初の設計図面の一部を

紹介しています。また12月3日(火)には、工事の合間を縫って、講堂内部を学内公開しました。

2011年の東日本大震災により、安田講堂も一部被害を受けました。今回の改修工事は、それら耐震改修に加え、建設当初のオリジナルの計画案に近い形で全体のプランを修正する大掛かりな工事になります。工事完了までは学内外の皆様にご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

→東京大学Facebookにて安田講堂のアルバムを公開しています。



CLOSE UP

2013年度業務改革総長賞表彰式を開催! (本部総務課)



総長から表彰状を受け取る受賞者。



受賞者によるプレゼンテーション。



受賞者一同。総長を囲んで記念撮影。

2013年12月20日(金)、伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールにおいて、2013年度業務改革総長賞表彰式が開催されました。

表彰式では、厳正な審査のうえ選出された総長賞3件、理事賞2件に対し、濱田総長及び前田理事(業務改革担当)から表彰状並びに副賞が授与され、引き続き、濱田総長が職員に向けて講話を行いました。職員へのメッセージとして、職員のポテンシャルを高く評価しボトムアップの力に期待したい、日々の業務の改善の経験を十分に活用し一歩踏み込んだ業務改革に「既存の感性を打破する意識と新たな感性の構築」をもって取り組んでいくことを期待する、「教職協働」の枠組みで充実感と責任感をもって大学運営に参画して欲しい、等の言葉が贈られました。また、受賞者による取り組み内容のプレゼンテーションも行われました。

当日は約300名の教職員が参加し、受賞を祝うとともに、優れた業務改革のアイデアを共有しました。

本年度の受賞課題は以下のとおりです。

●総長賞

・「英語版安全教育ビデオと確認テストのWeb配信による外国人研究員・学生への安全教育の

徹底」/カブリ数物連携宇宙研究機構(代表者: 田村 利恵子)

・「図書館ひっこしららくらキット ~配架計画支援アプリ「連番くん」及び「書架棚出し出力器」の作成による図書館の引越に伴う作業の効率化~」/法学部研究室図書室(代表者: 石田 唯)

・「専用ウェブサイト構築による会議資料の統合管理」/理学系研究科総務課総務チーム総務担当・情報システムチーム(代表者: 伊藤 亜利寿)

・「外国人留学生を対象とする民間奨学金選考プロセスの変更による業務効率化」/本部留学生・外国人研究者支援課生活支援チーム(代表者: 本田 健一)

・「駒場Iキャンパスで拾得物のありかを求めて ~キャンパス全体での拾得物の移管フローの整備と拾得物リストの公開~」/教養学部等学生支援課学生支援係(代表者: 府川 智行)

※以下URLにて、プレゼンテーション資料をご覧いただけます。(※学内限定)

業務改革総長賞受賞課題の一覧:

→<http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/業務改革総長賞受賞課題の一覧>



欧米日本学の支え手と新図書館構想

昨年9月中旬に、パリで開催された日本資料専門家欧州協会（EAJRS）の年次大会に参加・報告した。この団体は、ヨーロッパにおける日本関係資料（歴史・美術・文学・宗教資料）保存機関あるいは日本研究のコースのある大学図書館などのアーキビスト・司書・キュレーターなどの集まりである。英・仏・独・伊はもちろんルーマニア・ハンガリー・ロシアの東欧さらには中東レバノン・北米よりの報告者もあり、欧州にとどまらない日本研究の広がりを感じさせた。軍人・お雇い外国人のコレクション、19世紀の日本語教育など報告のテーマも多彩であったが、印象深かったのは、日本研究の支援・環境整備に関わる実践的内容のあったことである。たとえば、国立情報学研究所が提供するCiNiiBooksの入力についての司書向けのワークショップであり、あるいは、過去の超新星爆発の痕跡についての天文学研究者の要求に応えるべく、およそ専門外には不親切この上ない史料編纂所データベースと格闘した大

英図書館日本人スタッフの実践報告であった。参加者にはいわゆる欧州出身者もいたが、ほとんどは明らかに日本人（女性）で、海外における日本研究の支え手という意識の強さが感じられた。それ故に日本側への注文も厳しく、文系学術雑誌のデジタル化率の低さについての不満、日本に向けての具体的なアクションの訴えにも遭遇した（もちろんこれは国内の地方大学にも共通の問題であろう）。

翻って本学の新図書館構想では、世界最高水準のアジア研究環境の構築が謳われている。本学に存在する学術資源（モノ）を集めることは当然であろうが、より充実したものとするためには、それを支える人、彼女ら／彼らのようなネイティブの力も必要であろう。それが、アジア諸地域、とりわけ近年関係が悪化している近隣諸国との信頼関係を築く上で、のささやかな礎となることを願う。

遠藤基郎
(史料編纂所)